

まちの話題

少女神楽奉納

五穀豊穡と無病息災を祈る男成神社の祇園大祭が4月3日、4日に行われました。このなかで少女神楽が奉納され、氏子たちや地域の方々、アマチュアカメラマンが多数見守る中、御岳地域の子どもたちが古式ゆかしき荘厳な舞いを奉納しました。



町内小学校で入学式

4月11日、町内小学校で入学式が行われ、98名の新1年生が誕生しました。このうち、大野小学校では、鞍岡学治くんと佐藤浩志くんの二人を迎ええました。担任の先生からの点呼におおきな声で「はい！」と元気な返事。校長先生や在校生の代表から「いっしょに楽しい思い出をたくさんつくりましょう」と歓迎の言葉を受けました。式後、教育委員会や山都町防犯協会などからの交通安全グッズの贈呈式が行われました。交通安全グッズは町内の新入生全員に贈られています。



佐藤浩志くん(左)と鞍岡学治くん(右)

ふるさとの宝を 読み聞かせ

御岳小で読み聞かせを行ってある地域のボランティアグループ「ひだまりの会」が3月8日、紙芝居「通潤橋物語」を児童に披露。この日は、校長先生と教頭先生が加わり、8名で紙芝居を行いました。ふるさとの宝であり、世界に誇れる通水橋の「通潤橋」が造られた当時の様子や、人々の願い、布田保之助の志、石工や地域の人々の熱い思いや努力により成し遂げられた偉業が紙芝居となったこの「通潤橋物語」を聞いて、児童たちはとても感動していました。



紙芝居後の感謝のこたば

田小野卒業生を送る会

3月18日、田小野地区の中学・高校を卒業する子どもたちを激励しようと「卒業を祝う会」が田小野公民館で行われました。今年卒業を迎えたのは、中学校を卒業する西真人さん、岩崎祥大さん、國武春華さん、成瀬光さん、高校を卒業する成瀬昇さん、國武真史さんの6名。11回目となった「卒業を祝う会」には、地域の方々や卒業生の保護者が出席。野口洋一公民館長からの激励の言葉を受けたあと、卒業生が就職先や進学先での抱負や目標などを力強く語りました。



卒業を祝う会出席者の皆さん

ふるさとふれあい 福祉祭

3月27日、白糸第三自治振興区と同地区社協が主催する「第20回ふるさとふれあい福祉祭り」が開催されました。主催者あいさつで山崎逸男自治振興会長は、「地域最大の行事が20回目を迎えた。住民が一同に会し、健在を喜び合う一日なので、ゆっくり楽しんでほしい」と話しました。祭りでは、健康福祉課の認知症講座や矢響太鼓に続いて、地域の伝統で、町の無形民俗文化財に指定されている「目丸の棒踊り」の勇壮な舞いが披露されました。



目丸棒踊り

演奏に感謝を込めて

矢部中学校と矢部高校の吹奏楽部の定期演奏会が千寿苑を会場に開催されました。3月20日



矢部中学校



に矢部中、21日に矢部高校と連続開催となった演奏会は、卒業する3年生が参加する最後の演奏会となり、感謝の気持ちがこもった演奏となりました。両校吹奏楽部は、2010県吹奏楽コンクールで共に銀賞を受賞するなど各コンクールで高評価を得ています。



矢部高校

できることを少しずつ

3月14日、浜町保育園の園児が環境について学びました。講師を務めたのは兼瀬明彦さん。兼瀬さんは一年間、園の清掃管理を行う嘱託職員でした。その任期終了を前に園児たちに、アフリカでの植林事業の体験や、自身が町内有志と進める「菜の花プロジェクト」について話しました。「農業をすると、水の大切さを知り、そして自然の大切さを知る。みんなもできることを少しずつでもやってほしい」と園児たちにやさしく語りかけました。



菜種絞り器を実演する兼瀬さん(右)

下名連石そば打ち体験

下名連石農地・水会では休耕地対策として、地元小学生とともにソバの栽培に取り組み始めて今年も160kgの収穫がありました。収穫されたソバの実りは毎年、小学生のソバ打ち体験に提供されています。そのソバ打ち体験が3月30日、丸山ハイランドで行われました。この日参加した8名の小学生は2班に分かれてソバ打ちを体験。自分の顔より大きな包丁に苦戦し、麺の太さをなかなかそろえられませんでした。体験後の試食で、そのうまさにみんなの笑顔がこぼれました。



なかなかうまく切れません

商店街春の風物詩初市

山都町に春を告げる初市が、3月24日・25日に馬見原商店街で、3月27日に浜町商店街で開催されました。「こたつde初市」と銘打った馬見原商店街の初市では、会場を訪れた子どもたちや買い物客などがこたつでの休息を楽しんでいました。浜町商店街の初市では、「軽トラ市」が開催され、「島木のおみせ」などの出店のほか、牛深ハイヤ産直隊の出店があり、新鮮な海産物が並び買い物客を喜ばせました。



浜町軽トラ市

馬見原こたつde初市